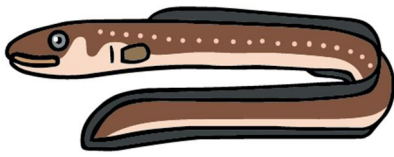


マアナゴ



- ・ 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、延縄で漁獲される。
- ・ 産卵場は、沖ノ島島南方の九州ーパラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれそれ）が日本沿岸に来遊する。

資源評価

東京湾

水準：低位



動向：不明（※）



※近年の資源水準は低水準であり、現在、集計対象の標本漁船ではマアナゴを目的とした操業がほとんど行われていないことから、最近5年間の1網当たり漁獲量の変化は資源動向を的確に表していない可能性があり、不明とした。

銚子・九十九里

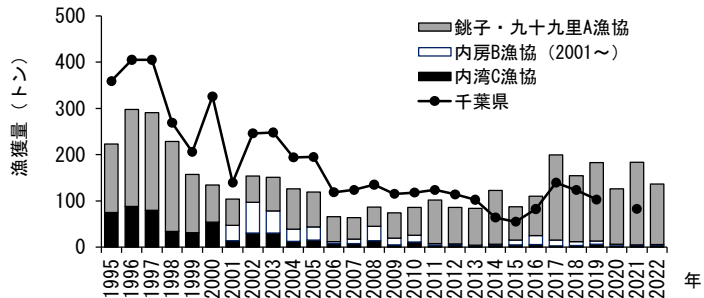
水準：中位



動向：増加



漁獲量



あなご類漁獲量の経年変化

棒グラフ：千葉県調べ

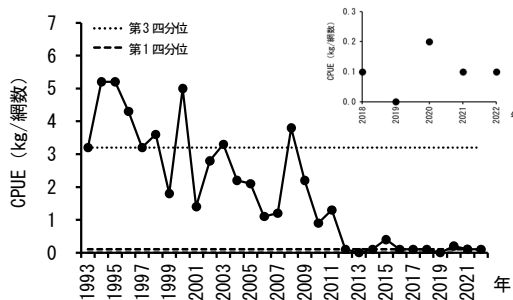
折れ線グラフ：2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

千葉県におけるあなご類の漁獲量は、1998年以降、減少傾向で、近年東京湾では30トン前後の低水準であるのに対し、銚子・九十九里では120-180トン程度の増加傾向にある。

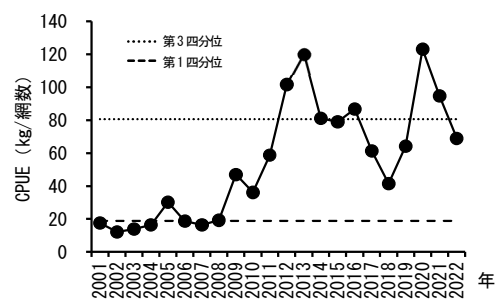
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網（東京湾）又は沖合底びき網（銚子・九十九里）の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2022年の資源水準、最近5年間の資源動向は、東京湾では低位、不明（※）、銚子・九十九里では中位、増加傾向にある。



東京湾における小型機船底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、6~12隻



銚子地区における沖合底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、1または2隻

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、小型機船底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護や沖合底びき網で漁具設置時間の制限など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。